

令和5年度 江戸川区立船堀小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	よく考えずすんで学ぶ子 思いやりがある心豊かな子 さいごまでやりぬく子 たくましくじょうぶな子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	子供が学びを通し、互いにかかわり合いながら思いを伝え合う学校 子供、保護者、地域の思いに寄り添った導きのできる学校 教職員同士が互いの思いを伝え合い、新たな教育の創造ができる学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>全国学力調査において、国や都の正答率を大きく上回る結果となるなど、習得型の学力を身につけることができた。授業改善に向けた研究授業を年間8回実施し、「主体的、対話的で深い学び」の視点による授業改善を、全校を挙げて日常的に実施した。コロナ禍後における教育活動について、内容を精査、改善しながら、平常時の形に1つずつ戻して進めることができた。</p> <p><課題>基礎的な学力や落ち着いた学習に向かう姿勢を生かして、自ら課題を見つけ主体的に解決しようとする意識がやや希薄であり、それを実現させるための授業改善が課題である。体力テストの結果で、国や都の平均を下回るものがあった。運動遊びの日常化や、体育科の学習の改善が課題である。</p>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進。 ・学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得。 ・家庭学習の習慣化。 ・組織的な対応による取組の実施と充実。	①主体的、協働的に学習に取り組む態度の育成。 ②放課後補習事業(週1回、2~6年)の活用。 ③校内研究を年間8回実施し、「主体的・協働的な学び」をつくる授業改善に組織的に取り組む。 ④ICT機器の活用による授業改善。 ⑤家庭学習の充実。	①東京ベーシックドリル診断テストにおいて、低学年で正答率85%以上、高学年で75%以上を達成する。加えてCD層の削減を図る。 ②児童意識調査「友達と自分の考えを比べて自分の考えを深めている」の肯定率85%。「自分からずすんで学習している」の肯定率90%。 ③ICT機器の授業と家庭学習での活用率向上。 ④全国学力・学習状況調査において正答率を国・都平均を上回ること						
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実。	①朝読書(15分)+1単位時間(45分)により年間35時間の授業時数を実施する。 ②読書科、図書館活用に関わる研修会、授業公開の実施により、指導法の理解を深める。 ③読書科ノートを活用した授業実践を積み重ね、学校公開時に保護者、地域に授業を公開する。(年間で学年1回) ④学校図書館及び区内図書館資料を活用した探究的な学習を年間通して計画的に実施する。	①児童意識調査「本を使って疑問を調べている」80%。「目的に応じて本を読もうとしている」80%。「調べたことをまとめたり、伝えようとしていたり」80%。 ②読書活動12時間の内の8時間以上を含め、各教科に関連させた探究的な学習を学期に1回以上実施する。						
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・校内研究を軸に、体育科の授業改善を行う。 ・児童の体力向上を図る。	①各学年週1回、朝の時間を活用した運動遊び「船スポタイム」を実施し、ずすんで運動遊びに親しめる児童を育成する。加えてなわ跳び週間、持久走大会等に取り組む運動機会を確保 ②各種運動領域の特性に応じた「楽しい体育」の授業を行い、3つの資質・能力のバランスが取れた学力を体育科学習を通して身に付ける。	①児童意識調査「休み時間にずすんで運動遊びをしている」肯定的回答率85%の数値向上。 ②全学年で、体力テスト(6月実施)における体力合計点が、全国平均以上達成を目指す。						
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施と充実。 ・エンカレッジルームの活用促進。 ・副籍交流及び共同学習の実施と充実。	①個に応じた指導の充実を図るため、各学年、特別支援教育コーディネーター、専門員、SC等が連携し、特別支援委員会を定期開催する。 ②エンカレッジルームを適切に運用する。 ③ユニバーサルデザインの授業実践を推進する。 ④学年、教科の実態に応じ、積極的に交流学習を推進する。 ⑤特別支援学級において通常学級担任が研修を行い、特別支援学級在籍児童の理解を深め、指導力向上につなげる。	①児童意識調査「友達と仲良くかわらうとしている」肯定的回答95%の向上。 ②巡回指導学級児童の満足度調査90%以上。 ③定期的な特別支援委員会の開催と情報共有を行う。						
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実。 ・教育相談の強化。 ・hupaer-QUの活用。	①hyperQ-Uテストを実施し、各学級の児童の意識を明確に把握して、児童理解に結び付ける。中でも要支援群に位置する児童への個別の対応を充実させる。 ②ふれあい月間における児童アンケートの実施と活用、対象児童への早期対応。 ③いじめの状態に応じた、いじめ校内委員会の開催。 ④SSW、外部関連機関と連携し、不登校対策委員会の定期開催。	①いじめ問題の早期発見を行い、解決率を100%とする。 ②不登校状況の具体的な改善。(登校日数の増加、面談機会の増加、放課後登校の増加等)						
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校ホームページの充実。 ・学校公開の実施と充実。	①学校配布文書のデータ配信及び各種アンケート調査のインターネットアンケートの実施。 ②学校の教育活動の様子をホームページ上で具体的に配信する。 ③保護者の人数制限を解除した学校公開、学校行事の開催。	①アンケート回答率80%以上。 ②学校の教育活動の週1回以上の更新。 ③保護者参観率90%以上。						
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善と充実に向けた学校関係者評価の実施。	①年間3回の学校評価委員会の開催。	①年間3回の学校評価委員会の開催。						
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	①SSS及び学年アシスタントの導入と効果的な活用。 ②一斉定時退勤日(年間11回)、年休取得促進日(年間3回)の実施。 ③ペーパーレス化の推進。	①月あたりの時間外勤務45時間以内の全員達成。 ②ストレスチェック結果におけるストレス状態の減少。(前年度比)						
	<ボランティアマインドの育成> ・船堀小ガーデンの維持運営。	①船堀街道沿いに「船堀小ガーデン」を造成し、全校児童と保護者がボランティアが協力して花壇の世話をすることを通して、自然を愛する心、ボランティアマインドの育成につなげる。	①船堀小ガーデンの取り組みに100%の児童が積極的に参加する。						